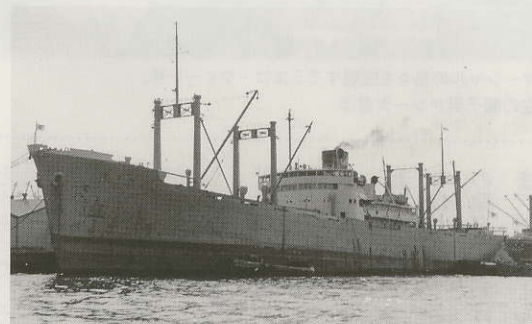
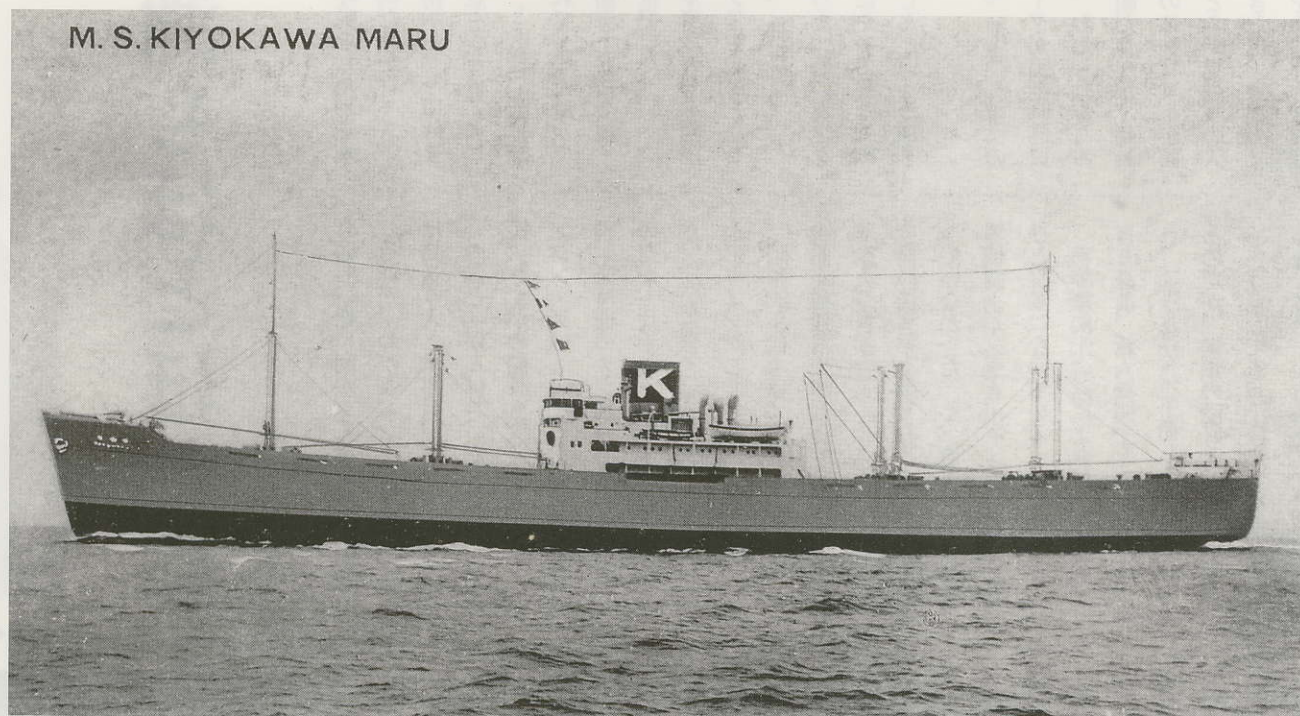


昭和の日本海運を支えた 「神聖君国」 シリーズの1隻

文・山田廸生（日本海事史学会副会長）



横浜港の聖川丸（滝田清氏撮影）



聖川丸の写真絵葉書（筆者所蔵）

聖川丸

《 主 要 目 》 貨物船、川崎汽船所屬。総トン数6,863トン、載貨重量トン数9,843トン、垂線間長145.0メートル、型幅19.0メートル、満載喫水8.2メートル。主機ディーゼル1基、出力（連続最大）8,810馬力、最高速力19.6ノット。1937（昭和12）年5月川崎造船所で竣工し、ニューヨーク航路に就航。1941（昭和16）年9月海軍に徴用され、特設水上機母艦に改造。1945（昭和20）年7月山口県室津沖で空爆を受け任意搁座。同年11月荒天のため横転沈没。戦後浮揚に成功。1949（昭和24）年外航船として復活。1963（昭和38）年神戸汽船に売却。1969（昭和44）年12月解体のため台湾に売却され、高雄で解体

屈指の高速ディーゼル貨物船

1930（昭和5）年、大阪商船がニューヨーク急航線を開設し高速貨物船を投入して以来、各社が競って優秀船をこの航路に投入したことは前回述べた。今回は川崎汽船の高速貨物船「聖川丸」^{きよかわまる}。前回の「有馬山丸」と同じ1937（昭和12）年の生まれである。

川崎汽船が川崎造船所船舶部、国際汽船（昭和初年離脱）と提携してKラインを結成したのは第1次大戦後のこと。そしてKラインがニューヨーク定期航路に進出したのは、大阪商船より2年遅れた1932（昭和7）年。高速貨物船の整備は、社内事情によりさらに遅れ、1936（昭和11）年になった。

遅れはしたが、川崎汽船は他社をしのぐ高速船を建造した。「神聖君国」を船名に冠した4姉妹である。時代を反映した命名だ。

第1船「神川丸」は1937年3月に竣工。次いで同年中に「聖川丸」「君川丸」「国川丸」が完成しニューヨーク航路に就航した。

建造は川崎造船所。6800総トン。船首楼付きの遮浪甲板船である。主機には計画出力7500馬力の川崎MAN型ディーゼル1基を装備し、19ノットをこえるスピードを出した。なかでも第2船「聖川丸」は、処女航海で横浜―サンフランシスコを10日19時間6分、平均速力17・63ノットで航走した。

戦前の高速貨物船では、翌年に同造船所で完成した国際汽船の「金華丸」（9301総トン、同型船・金竜丸）が試運転時に21・54ノットを出している。計画出力9200馬力の川崎MAN型ディーゼル1基を装備。船型はパナマ通過用の減トン開口部を閉鎖した遮浪甲板船（Closed Shelter Decker）で、水線下の船型は「神川丸」級と同じである。

特設水上機母艦に変身

「神川丸」誕生の年に日中戦争が勃発した。以後、太平洋戦争までの間、4隻は海軍に徴用され、特設水上機母艦として軍務に服した。海軍はかねてから高速貨物船を水上機母艦に改造し、移動航空基地として偵察・索敵や警備に充てることを計画していたのである。

「聖川丸」は横須賀海軍工廠で改造された。遮浪甲板上に水上機の搭載設備とカタパルトを付加し、船首尾に砲を備えた。船倉内には搭乗員と整備員の居住区、整備工場、ガソリン庫、爆弾庫などが設けられた。太平洋戦争開戦時の搭載機は水上偵察機12機だったという（木俣滋郎氏『残存帝国艦艇』）。

活躍はめざましかった。開戦とともにグアム島攻略に参加。翌年（1942年）にはラバウル攻略、東部ニューギニア上陸作戦を支援した。そして、その年の暮れに運送船に転じた。米潜の跳梁で戦没船が続出。高速の「聖

川丸」は運び屋にならざるを得なかった。だが、歴戦の「聖川丸」もついに運が付きた。敗戦の年（1945年）の7月、山口県室津沖に退避中空爆を受け、任意擱座したが、同年11月荒天のため横転し沈没した。

ニューヨーク航路に復帰

戦後の船不足のなか、1948（昭和23）年8月、川崎重工のサルベージ部門が「聖川丸」の引揚げに着手した。浮揚に成功後、川崎重工で本格的に修復され、外航船として復活した。1950（昭和25）年8月には、戦後の北米航路第1船として就航した。

私事で恐縮だが、筆者は復活後の「聖川丸」を観音崎から望見した思い出がある。中学校の臨海学校でのことだ。黒塗装の戦艦船がほとんどだった日本船のなかにあって、グレーの船体塗装の「聖川丸」は輝いて見えた。

1951（昭和26）年6月、GHQはニューヨーク定期航路の再開を認めた。川崎汽船は再開に向けて高速船隊を整備。「神川丸」「君川丸」「国川丸」が完成し、「聖川丸」を加え、再び「神聖君国」の4隻が揃った。再開第1船は「君川丸」で、1952（昭和27）年9月横浜を出港し北米に向かった。

1963（昭和38）年、「聖川丸」は神戸汽船に移り、6年後、解体のため台湾の業者に売却。32年の波瀾の生涯を閉じた。